

題材の目標

- (1) 関節や重心の位置に着目し、「のびる」「ためる」などの動きの感じや躍動感をとらえ、材料や用具の特性を生かしながら、創造的に人物を表現することができる。
- (2) 人物の瞬間の動きから感じ取ったことを基に、主題を生み出し、単純化や強調、構成の仕方などを考え、表現の構想を練ることができる。造形的なよさや美しさ、人物の瞬間の動きから感じ取ったことを基にした主題と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わうことができる。
- (3) 人物の動きを立体で表すことに興味をもち、主体的に創造的な工夫をして表したり、表現の工夫などを感じ取ったりしようとする。

標準的な展開例

【準備等】加工粘土、針金、麻ひも、しゅろ縄、板、芯材、ラジオペンチ、へら、タブレット端末、筆記用具、スケッチ用具、絵の具

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 参考作品を見て、躍動感や緊張感を感じ取る。</p> <p>★静止している彫刻から、なぜ動きを感じるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書図版などの参考作品を鑑賞し、人の動きの躍動感や緊張感のある場面に共感する。 ○見たことや経験したことから自分が表したい動きのある場面を想像し、友だちにポーズをとってもらおうなどして体の傾きやねじれの様子などを観察する。 <p>2 制作の主題を考える。</p> <p>★制作の主題に合わせて、体の表現方法を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どのような瞬間の動きを表すのか考え、制作の主題を生み出す。 <p>3～5 手順に従って、制作する。</p> <p>★手順を考え、見通しをもって制作しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○心棒や粘土での制作手順、成形や着色の技法について見通しをもつ。 ○心棒を針金でつくり、プロポーションや、関節の位置、曲げる角度を検討する。 ○台座と心棒を固定する。 ○加工粘土等で成形する。 ○動きが感じられる形になっているか確かめながら、強調や省略も意識してつくり込む。 ○成形の道具や技法を工夫したり、削ったりして細部までつくり込む。 ○絵の具で着色したり、ニスでつやを出したりして仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2次元コードを読み取り、参考作品から動きを感じるところを発表させどのような部分から感じられるかを考えさせる。 ・体の傾き、重心がかかった足首と頭の位置関係に着目させる。 ・ポーズを取る際、体をねじったり傾きを変えたりして動きを感じるポーズを探させる。 <p>【評】美術の創造活動の喜びを味わい、人の動きを深く見つめて感じ取ったことや考えたことを基にした彫刻表現や鑑賞の活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手足の長さなどのプロポーションや、ポーズをどう強調したり省略したりすると主題が表しやすいか考えさせる。 <p>【評】人の動きから感じ取ったイメージなどを基に主題を生み出し、形や重心の効果などを考え構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・針金はラジオペンチなどを2本使用して関節部分で曲げさせる。 ・さまざまな方向から動きや形を確認させる。 ・2次元コードの「360度で見よう。」を活用する。 ・台座に固定する針金は、縦と横など2方向以上で固定し、心棒がぐらつかないようにさせる。 ・関節部分で形が曲がることや、動きが強調されるような形のつながり方やねじれを意識させながら、成形させる。 ・指先の方向や形など細部にまで気を配らせ、躍動感や緊張感のある表現を目指させる。 ・下地や薄い色から着色するなどの着色手順を理解させる。 <p>【評】関節や重心の位置に着目し、「のび</p>

<p>6 鑑賞会を行う。</p> <p>★作品の表現の工夫について話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞会をする。 ○互いの作品について鑑賞会を行い、表現の意図や創造的な工夫などについて発表し合い、そのよさや楽しさを感じ取り味わう。 	<p>る」「ためる」などの動きの感じや躍動感を捉え材料の特性を生かして表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の作品のよさや表現の工夫に共感して楽しめるように肯定的な見方で鑑賞会が行えるように工夫する。 <p>【評】造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>
--	--

【 備 考 】

本題材は、静止した粘土彫刻の中に、相反する一瞬の人の動きの躍動感や緊張感などが生き生きと表現できるおもしろさを感じ取らせながら制作に取り組ませる。人の体の頭部や胴体、手足などが密接に関連して動いていることを体の関節や重心の位置などに着目させて感じ取らせる。また、「のびる」「ためる」などの動きを感じさせる要素を意識させながら実際にポーズをとらせるなどして、躍動感を感じさせる動きの特徴を理解させる。そして、その動きを表現するための、台座、心棒、針金の曲げ、粘土での形成、仕上げ、着彩といった一連の制作の手順について見通しをもって取り組ませる。